

学校概要

創立 42 周年	学校長 石川 英雄	副校長 山本 美和	学期 2 学期制	児童・生徒数 404 人
学級数 一般級: 13 個別支援級: 2			主な関係校: 万騎が原中学校	

学校教育目標

『輝けいのち のぼそう力 みんな大好き 南本小』  
 自ら学び、考えを深め、伝え合おうとする子を育てます。(知)  
 自分も友達も大切にし、お互いを認め合おうとする子を育てます。(徳)  
 いのちの価値に気付き、健康に過ごそうとする子を育てます。(体)  
 まちを愛し、進んでかかわっていかうとする子を育てます。(公)  
 日本を知り、世界に視野を広げようとする子を育てます。(開)

学校の特徴

駅周辺には多くの店舗、大型スーパーがあり、周囲には南本宿公園、こども自然公園、南本宿市民の森など自然豊かな公園が散在しているので、生活科や『横浜の時間』などの学習に活用できる材が豊富である。 住民参画の地域行事が盛んで、地域の教育力が大変高く、学校に協力的で、それがPTA活動にも反映されている。 地元住民(水田指導員)の指導のもと実施できている『教育水田活動』は情操教育に大いに役立っている。 授業づくりに熱心で、全職員で学び合う姿勢が生まれてきている。  
 若手職員が多くを占めるため、校務分掌の理解とスキルアップが必要である。 児童は基礎力はあるが、活用力に課題があるため、自主的・主体的な取り組み場面を設定する必要がある。

学校経営中期取組目標

- 全職員が『チーム南本』として、『子どもの幸せ』を第一に捉え、活力と魅力にあふれた学校づくりを目指します。
- 個に応じた支援・指導を充実するとともに、学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、主体性を育てながら学力の向上を目指します。
- 一人一人の子どもが、自分の居場所を見つけ、安心して、楽しい学校生活を送り、自己有用感を高めます。
- 家庭、地域との緊密な連携のもと、積極的な参画を得て、社会の要請や信頼に応え、地域に愛される学校づくりを進めています。

小中一貫教育の取組

万騎が原中学校 ブロック : 万騎が原中学校、南本宿小学校、万騎が原小学校、さちが丘小学校、二俣川小学校

9年間で育てる子ども像	主体的に行動し、自ら学び、互いに高め合うことのできる子ども 『ふれあい』を大切にし、主体的にかかわれる子どもの育成 ~ 小中9年間を通して、コミュニケーション能力の向上を図る ~
自校の具体的取組	・『主体性』『自主性』をキーワードにして、諸活動を展開していく。 ・参観交流及び中学校職員との合同会議を年間3回行い、全ての教員との協働で小中一貫カリキュラムの質を高める。 ・教務主任会、専任会を通して、常に、本ブロックの指導の方向性を確認し合い、本校の諸活動に反映させていく。

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	基礎・基本の定着に重点を置くとともに、具体的な体験や豊かななかかわり合いを通じた授業づくりを工夫し、主体的に探究していく力を育てる。	『かがやきルーム』の人員および環境を整備し、個に応じた指導を進めることで、基礎基本のさらなる定着を図る。 UDについての研修を意図的・計画的に設定し、全学級での活用ができるようにする。 校内授業研等において、探究型の授業に取り組み、子どもたちの『主体性』『自主性』を促すとともに、自己表現力を養う。
豊かな心	自他の違いのよさを認め合い、大切にしたい、自己有用感を養うことで自信をもって、豊かな人間関係を築いていく児童を育てる。	カリキュラムマネジメントを行いながら、より子どもたちの心に響く授業を目指す。 一人一人の居場所づくりに努め、諸活動への参画意識を高めることで自己有用感を育てる。 朝の時間などを活用し、意図的、計画的に横浜プログラムに取り組み、ソーシャルスキルを高める。
健やかな体	体育の時間を中心に、健康・体力の素地を養う。体力向上1校1実践運動や休み時間を活用し、総合的に体力向上を目指す。	引き続き『早寝、早起き、朝ご飯』を合言葉に、全校への日常化を図る。 体力アップでは『長縄』に加えて『ベース走』に取り組みとともに、体育の冒頭5分を活用し、さらなる体力向上を目指す。 給食後の歯みがき指導を行い、口腔衛生の向上を図る。 学校保健委員会の呼びかけを継続し、健康への関心を高める。
学校運営協議会	学校運営協議会の活動を周知し、学校と地域が緊密に連携し、児童の学習・生活指導を支える体制を構築する。	学校だよりの学校運営協議会コーナーを生かし、内容のさらなる周知を図ることで地域の参画意識を高める。 学校運営協議会委員をはじめとした地域の力を生かし、支援隊やスクールゾーン対策協議会などの活性化を図り、子どもたちの安全を確保する。 学校・地域コーディネーターを中心とした仕組み作りを進める。
児童生徒指導	全職員で『南本児童指導概要』及び『南本スタンダード』を共有し、児童の心に寄り添った適時適切な声掛けや指導を実行し、いじめの未然防止・早期発見に努める。	『南本スタンダード』を、児童の実態に合わせて内容を精選し、学校と家庭が一体となった指導を行う。 校内研修、職員会議、打合せなどで、児童理解を深め、より実践的な児童指導力の向上を図る。 インベーションデスクを活用し、他のブロックとも連携して動くことを目指していく。
特別支援教育	児童へのアセスメント力を向上させ、児童の特性に応じた支援を行う。一般学級と個別支援学級の連携を密にし、交流及び共同学習を進める。	定期的な研修を行い、障害理解、基礎的環境整備、合理的配慮について、より現状に合った情報を共有する。 カウンセラーや関係機関と連携を積極的に行い、センター機能なども活用して適切な支援方法を探る。 一般学級と個別支援学級の連携強化に向けて、打ち合わせを充実させ、交流と共同学習を推進する。
いじめへの対応	いじめが起きにくい環境作りにより、いじめの未然防止につとめる。教職員の人権意識を高め、情報共有をすることで早期発見、組織的対応を目指す。	低・中・高学年のブロック主任を配置し、ブロック内での情報共有や事案対応策を検討の後、児童支援専任や管理職との共通理解の場を設けることで、より組織的な対応を目指す。 児童や保護者に向けて、学校いじめ防止基本方針について伝える場を設ける。 教職員研修や情報共有を密に行い、さらなる児童理解に努める。
人材育成・組織運営	校内研修を充実させ、学校に求められている職員としての実践力を高める。また、職員の参画意識の向上を目指し、組織を改善する。	メンターチームをメンターとメンティーに分けることで、必要に応じた研修を主体的に行う。 職員会議や企画会を通して、各校務分掌の部ごとに、より組織的に学校行事等を運営できるようにする。 職員一人一人が全体を見通して学校運営に参画できるよう、学校評価等を活用し、日常の気付きを組織の改善に生かす。